

第24回企画展

さいたま 考古学の始まり

安岡路洋 考古コレクション展

平成25年 **3月16日** (土) ▶ **5月6日** (月)



- 大宮駅から徒歩15分
- 駐車場が狭いので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

**入館
無料**

さいたま市立博物館

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2-1-2 ☎048-644-2322
開館時間：午前9時～午後4時30分 休館日：月曜日(4月29日・5月6日は開館)・3月21日・4月30日
<http://www.city.saitama.jp/hakubutsukan.html>

開催にあたって

市町村の埋蔵文化財保護行政が始まったばかりの昭和30年代から40年代にかけては、遺跡の存在も十分に把握されておらず、工事などにより削り取られてしまうこともしばしばありました。このようななか平成23年1月に亡くなられた故安岡路洋氏は、精力的に市内を歩き、土器や石器を採集して遺跡の所在や時期などの解明に努め、発掘調査を行い、失われてしまう遺跡の貴重な記録を残しました。なかでも縄文時代早期「稻荷原式土器」の提唱や縄文時代草創期の発掘調査成果などは、日本考古学史に残る貴重な研究となりました。また、仕事の合間をぬって私費で調査を続けるその姿は「町の考古学者」として、当時の新聞紙上に紹介されています。

安岡氏が永年にわたって採集した出土品や図面、写真などの考古資料のほとんどは、当館に寄贈されています。今回の企画展では、寄贈品に加え、当館で保管している資料、他の機関で所蔵されている関係資料を展示し、安岡氏の調査・研究の足跡を紹介します。一人の研究者の遺した物から、半世紀前のさいたま考古学の歩みを振り返り、それらを少しでも遺そうとした人々がいたことをお伝えできれば幸いです。晩年は、テレビ東京で放映されている「開運！なんでも鑑定団」への出演や民芸館「木魄舎」を主宰するなど古民具についての造詣の深さで著名であった安岡氏ですが、「さいたま考古学の始まり」においても大きな礎を遺していたのです。

関連講座

●3月16日(土)

「埼玉縄文時代開始期研究のあゆみ」

講師 中島 宏氏(元埼玉県立歴史と民俗の博物館学芸員)

●3月23日(土)

「縄文時代のさいたま」

講師 下村克彦氏(元さいたま市立博物館長)

時 間：午後2時から3時30分

定 員：55名

会 場：さいたま市立博物館 講座室

※参加をご希望の方は、お電話で博物館にお申込みください。

受付開始：3月5日(火)午前9時から

博物館職員による展示解説

3月24日(日)・4月7日(日)

午前11時～・午後2時～ 各30分程度

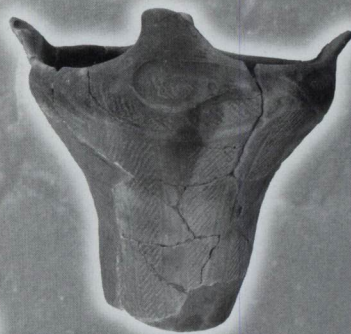
お申込みは不要です。



丸木舟の出土 膝子遺跡(見沼区)



深鉢形土器
膝子遺跡(見沼区)
縄文時代後期



深鉢形土器
指扇出土(西区)
縄文時代中期



みみずく形土器
裏慈恩寺遺跡(岩槻区)
縄文時代後期



注口土器
裏慈恩寺遺跡(岩槻区)
縄文時代後期